

発行：〒656-0011 兵庫県洲本市炬口1-3-19 東亜天文学会速報部
郵便振替口座：00980-8-189107 加入者名：東亜天文学会速報部 購読料1部130円

Published by the Department of Yamamoto Circular, Oriental Astronomical Association

Collaborating with the Computing and Minor Planet Sections

P. O. Box No.32, Sumoto, Hyogo-Ken, 656-8691 JAPAN

e-Mail address: (Subscription) URL: <http://www.oaa.gr.jp/~oaacs/yc.htm>

編集：中野 主一 ☎ 0799-22-3747 Fax: 23-1104 e-Mail address:

Editor: Syuichi Nakano, 3-19, Takenokuchi 1 Chome, Sumoto, Hyogo-Ken, 656-0011 JAPAN

みずがめ座 η 流星群 η Aquarids in 2008

神戸の豆田勝彦氏 (*Katsuhiko Mameta, Kobe*) は、神戸市北区で2008年4月28/29日、5月2/3日、3/4日、5/6日、6/7日に、この群の定常観測を行なった。氏によると、5月5/6日と6/7日の90分間に、それぞれ、8個と7個の同群流星が出現し、この群の活動としては、その出現が多かったという。なお、天文年鑑2008によると、今年はこの流星群の極大は5月6日03時JSTで、実際の極大もこの頃にあったものと思われる。氏の観測は、4月28/29日26:00~27:20 JSTに全流星9個、みずがめ座 η 群3個、最微光星5.6等。以下同順に、5月2/3日26:00~27:00、7個、2個、5.6等、27:00~27:30、4個、2個、5.5等、3/4日26:00~27:00、8個、1個、5.6等、27:00~27:30、6個、4個、5.6等、5/6日26:00~27:00、12個、4個、5.7等、27:00~27:30、8個、4個、5.7等、6/7日26:00~27:00、15個、3個、5.8等、27:00~27:30、10個、4個、5.8等であった (cf. YC 2556)。

ボアッティーニ新彗星 C/2008 J1 (Boattini)

ボアッティーニ (*A. Boattini*) は、68-cm シュミットを使用して行なわれているカテリナ・スカイサーベイで、2008年5月2日にこうま座といるか座の境界近くを撮影した CCD フレーム上の次の位置に14等級の新彗星を発見した。発見当時、彗星には、約50"のコマと西南に長さが2'の扇形の尾が見られた。発見同夜に1.0-m f/3.0 反射望遠鏡でこの彗星を追跡観測した美星スペースガードセンターの浅見敦夫氏と坂本強氏 (*A. Asami & T. Sakamoto, Bisei*) は、この彗星には、視直径20"のコマと西南に24"の尾があることを観測した。なお、同夜、守山の井狩康一氏 (*Y. Ikari, Moriyama*) も、この彗星の追跡観測を行なったが、形状の報告はなかった。5月3日に西欧各地で行なわれたその後の追跡観測でも、彗星には、約15"ほどのコマと西南に伸びる60"ほどの尾が認められた (IAUC 8940)。5月3日には、上尾の門田健一氏 (*K. Kadota, Ageo*)、八束の安部裕史氏 (*H. Abe, Yatsuka*)、井狩氏の観測が報告された。彗星の CCD 全光度は、門田氏が13.9等、安部氏が14.1等と観測している。なお、米国のヘール (*A. Hale, Cloudcraft*) は、5月2日の彗星の眼視全光度を13.4等と報告している。

2008 UT	α	(2000)	δ	Mag.
May 2.46097	21 ^h 01 ^m 39 ^s .57	+10°	19' 29".9	14.2

OAA 計算課では、2008年5月2日から5月26日までに行なわれた220個の観測から次の軌道を決定した。軌道改良に使用された最終観測の一群は、井狩氏によるもの。彗星は、周期がP=2000年 (a=158 AU) ほどの長円軌道を動く長周期彗星であった。

T = 2008 July 13.2802 TT	$\omega = 68.1328$	} (2000.0)
e = 0.989121	$\Omega = 273.4167$	
q = 1.724107 AU	i = 61.7789	

その後の彗星の CCD 全光度は、5月5日に13.9等 (安部)、6日に13.8等、14日に13.7等 (門田)、16日に13.3等 (安部) と観測されている。下の位置予報のとおり、6月には、彗星は、12等級まで明るくなるだろう。

2008/ 27h JST	α h m	(2000)	δ	Δ	r	Daily motion	Elong.	Phase	m1 等
				AU	AU				
May 28	21 31.08	+32	01.7	1.531	1.822	56.5/13	89.1	33.8	13.0
30	21 33.12	+33	52.0	1.518	1.814	56.8/13	89.2	34.0	13.0
June 1	21 35.12	+35	43.0	1.506	1.806	57.0/12	89.4	34.2	13.0
3	21 37.08	+37	34.7	1.495	1.799	57.1/11	89.5	34.3	12.9
5	21 39.00	+39	26.7	1.486	1.792	57.1/11	89.5	34.5	12.9
7	21 40.89	+41	18.8	1.477	1.785	57.0/10	89.5	34.7	12.9
9	21 42.73	+43	10.9	1.471	1.778	56.8/10	89.4	34.8	12.8

2008/ 27h JST	α h m	(2000) δ ° ' "	Δ AU	r AU	Daily motion , °	Elong. °	Phase °	mI 等
11	21 44.53	+45 02.6	1.465	1.772	56.4/ 9	89.3	35.0	12.8
13	21 46.29	+46 53.7	1.461	1.766	56.0/ 9	89.1	35.1	12.8
15	21 47.99	+48 44.1	1.458	1.761	55.4/ 8	88.9	35.2	12.8
17	21 49.65	+50 33.5	1.456	1.756	54.8/ 8	88.7	35.3	12.8
19	21 51.25	+52 21.7	1.455	1.751	54.1/ 7	88.4	35.5	12.7
21	21 52.80	+54 08.5	1.456	1.747	53.2/ 7	88.1	35.6	12.7
23	21 54.28	+55 53.8	1.457	1.743	52.3/ 6	87.7	35.6	12.7
25	21 55.69	+57 37.3	1.459	1.739	51.3/ 6	87.3	35.7	12.7
27	21 57.02	+59 18.9	1.463	1.736	50.3/ 5	86.9	35.8	12.7
29	21 58.27	+60 58.5	1.467	1.733	49.2/ 5	86.5	35.8	12.7
July 1	21 59.42	+62 35.9	1.472	1.731	48.0/ 4	86.1	35.9	12.7

mI = 9.5 + 5 log Δ + 10.0 log r

ビシヨール新周期彗星 P/2008 J2 (Beshore)

ビシヨール (*E. Beshore*) は、レモン山の 1.5-m 反射で 2008 年 5 月 6 日にへびつかい座を撮影した検索フレーム上の次の位置に 13 等級の新周期彗星を発見した。発見当時、彗星には、明るく集光した 20" のコマと西に淡い尾があった。発見同夜のギルモア (*A. C. Gilmore, Mt. John*) による 1.0-m 反射での観測では、彗星には、約 16" の明るいコマと西南西に淡くて短い尾が見られた。また、マックガハ (*J. E. McGaha, Tucson*) による 7 日の観測では、彗星には集光部のある約 11" のコマが 16" ほど集光部から広がっていること、5 月 10 日の観測では、12" の集光部に 30" の淡いコマがあって、西に 68" の淡い尾が見られることが報告された。また、ヤング (*J. Young, Table Mountain*) の 5 月 7 日の観測では、西に少し伸びた 12" のコマと同じ方向に 40" ほどの尾があるように見られるなど、彗星は、発見後に、多くの観測者によって追跡観測が行なわれた (IAUC 8941, IAUC 8942)。

2008 UT	α h m s	(2000) δ ° ' "	Mag.
May 6.44680	17 ^h 06 ^m 21 ^s .38	-13° 33' 36".1	13.8

OAA 計算課では、2008 年 5 月 6 日から 5 月 26 日までに行なわれた 266 個の観測から次の軌道を決した。軌道改良に使用された最終観測の一群は、守山の井狩康一氏 (*Y. Ikari, Moriyama*) によるもの。彗星は、周期が約 6.5 年の新周期彗星であった。なお、彗星は、発見同夜 (5 月 6 日) に守山と美星で観測された。しかし、美星の 1.0-m 反射での観測では、彗星は、恒星状との報告があった。彗星が増光して発見されたのならば、この頃にアウトバーストを起こしたのかも知れない。

T = 2008 Mar. 25.1652 TT	
$\omega = 133^\circ.3643$	} (2000.0)
$\Omega = 98.1534$	
$i = 10.3346$	
$q = 2.4201221$ AU	
	e = 0.303159
	a = 3.472991 AU
	n° = 0.1522820
	P = 6.47 年

彗星の眼視光度が 5 月 7 日に 14.1 等 (ヘル; 米国), 9 日に 13.0 等 (パルドウスキ; ポーランド), 12 日に 12.7 等 (ゴンザレス; スペイン) と観測されている (IAUC 8944)。また、彗星の CCD 全光度は、5 月 11 日に 13.4 等 (門田), 12 日に 12.9 等 (安部裕史; 八束, 筆者測光), 14 日に 13.6 等, 20 日に 13.9 等 (門田) と報告されている。

2008/ 23h JST	α h m	(2000) δ ° ' "	Δ AU	r AU	Daily motion , °	Elong. °	Phase °	mI 等
May 28	16 52.31	-14 23.5	1.447	2.451	11.9/255	170.0	4.1	13.2
30	16 50.73	-14 29.8	1.446	2.453	12.0/254	171.3	3.6	13.2
June 1	16 49.13	-14 36.4	1.447	2.455	12.1/254	172.1	3.3	13.2
3	16 47.53	-14 43.2	1.448	2.457	12.2/253	172.3	3.2	13.2
5	16 45.92	-14 50.3	1.451	2.460	12.1/252	171.9	3.3	13.2
7	16 44.33	-14 57.8	1.454	2.462	12.0/252	170.9	3.7	13.2
9	16 42.76	-15 05.4	1.459	2.464	11.9/251	169.5	4.3	13.2
11	16 41.22	-15 13.4	1.464	2.466	11.7/250	167.8	5.0	13.2
13	16 39.72	-15 21.5	1.471	2.469	11.4/248	166.0	5.7	13.3
15	16 38.26	-15 30.0	1.478	2.471	11.1/247	164.1	6.5	13.3
17	16 36.86	-15 38.6	1.487	2.473	10.7/246	162.1	7.2	13.3
19	16 35.52	-15 47.5	1.496	2.476	10.4/244	160.1	8.0	13.3
21	16 34.25	-15 56.6	1.506	2.478	9.9/242	158.1	8.8	13.3
23	16 33.04	-16 05.9	1.518	2.481	9.5/240	156.0	9.6	13.4
25	16 31.92	-16 15.3	1.530	2.484	9.0/238	154.0	10.3	13.4
27	16 30.88	-16 25.0	1.543	2.486	8.5/235	151.9	11.1	13.4
29	16 29.93	-16 34.8	1.557	2.489	8.1/232	149.9	11.8	13.4
July 1	16 29.07	-16 44.8	1.572	2.492	7.6/228	147.9	12.5	13.4

mI = 8.5 + 5 log Δ + 10.0 log r